

興譲館高校は文部科学省よりSSHの指定を受けています。

SSHは1度指定を受けると、5年間の指定期間となります。現在 興譲館高校は第4期1年目です。実践型指定校として、培われてきた取り組みをさらに引き続き続けてくださいという枠になってます。

年度初めの今号では、SSH事業の概要について紹介していきます。

Q SSHとは何ですか？

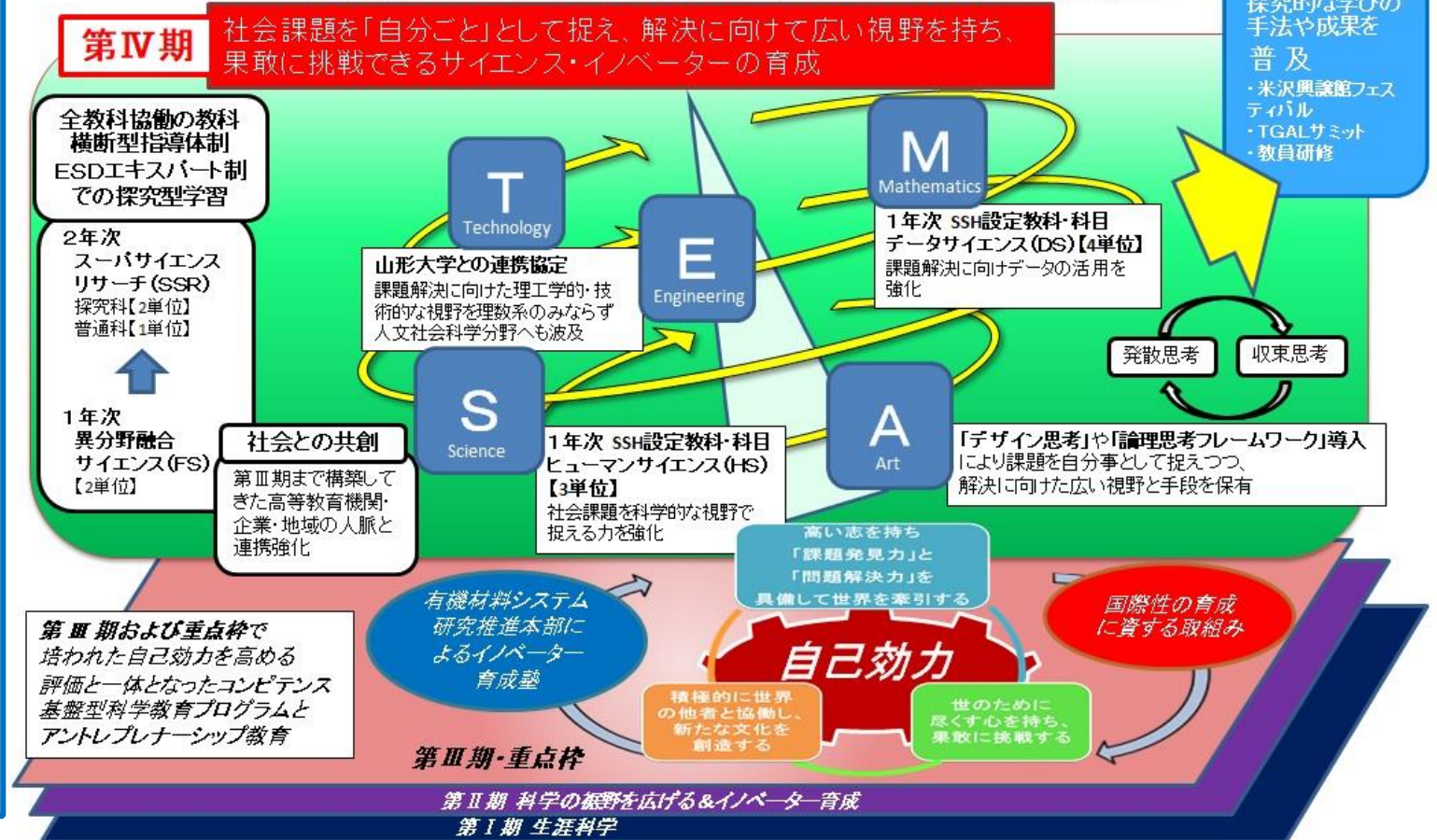
A SSHは、スーパーサイエンスハイスクール（以下、SSHと略します）の頭文字で、文部科学省による研究開発指定校です。未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとして、理数系教育の充実をはかる取り組みです。

全国で約200校がSSHに指定されており、これは全国の高等学校の4%程度で、日本有数の進学校などが指定を受けています。

本校は、今年度4回目の指定を受け、「未来に果敢に挑戦できる科学技術系人材の育成」を研究開発課題として、令和4年度～令和8年度まで5カ年間取り組みます。

未来に果敢に挑戦できる科学技術系人材の育成

～米沢興譲館STEAM教育の実践・発展とその成果の普及～



Q 入学してからのSSHとしての取り組みの要はどのようなものですか？

A まず、1年生全員を対象として学校設定教科・科目『異分野融合サイエンス』を展開していきます。これは、全教科が協力し、様々な学問領域を融合させ、大学や研究機関等と連携を図りながら体験的な実験講座や演習等を行っていくものです。低学年の段階で様々な分野を「自然科学」の切り口で学ぶことにより、自然科学に対する興味・関心が高まる取り組みとなります。さらに、これら低学年時の学びによって、科学の面白さや奥深さに気づき、そのような学問をさらに深く学んでいきたいという生徒に対しては、2年生以降から卓越研究者の素養を育む研修等に取り組んでいきます。日本の将来を担うサイエンスイノベーター（卓越した研究者）になるためには、豊かな表現力や国際性が備わっている必要があるため、国語科や英語科と協力しながら、海外研修も実施しています。

Q SSHの具体的取り組みを教えてください。

A 山形大学工学部と連携した様々な取り組みがあります。例えば、スーパーサイエンスリサーチ(SSR)です。高等教育機関と連携することで、課題研究の質的向上を目指しています。そのために、山形大学工学部に在籍している海外の留学生が毎週ティーチングアシスタントとして来校し、英語で生徒の研究を支援してくれています。

他にも様々な校外研修活動があります。関西方面へのサイエンス研修では全国SSH生徒研究発表会に参加しながらスーパーコンピュータ「富岳」等の科学関連施設研修を行っています。海外研修では平成27年3月に姉妹校協定を締結した国立台湾師範大学附属高級中学へ訪問し、お互いの研究内容を英語で発表する機会を設けています。

「米沢興譲館高校 未来創造プログラム ～なせば成る～」の流れ

